

実践報告資料

研究テーマ『個々の実態に応じ、子どもの権利を尊重した指導の充実

～人権教育は職員室の人権意識の向上から～』

研究内容【(1)、(2)、(3)、(4)】

学校名（伊丹市立荒牧中学校）

ア 人権教育としてのねらい

一人ひとりの存在や思いを大切にさせることで自他の人権を尊重できる生徒を育てる

イ 研究の概要

- ・ インターネット上の人権侵害や性の多様性に関する知識を学ぶ。
- ・ 生徒の自主性を発揮できるための場や個々の状況に応じた活躍の場の設定を行うことで、自己肯定感を培い、コミュニケーション能力を高めるとともにより良い人間関係を育む。
- ・ 主体的・対話的な学び合いを通して自己肯定感や自己有用感を育む。
- ・ 性の多様性に関する実践を通して、自他の価値観を認め合う態度を育てる。

教科等	各教科（社会）	特別の教科 道徳	総合的な学習の時間	特別活動
指導者	3年社会科担当	全教職員	全教職員	1年職員
実施日	12月6日	12月16日	6月16日～1月25日	7月9日・16日
取組名	「ネット社会」とつきあう方法	多様な性について学ぶ	ROSE タイム	「自分らしく生きる」～性の多様性について考える～
目 標	「ネット社会」の利便性と危険性について理解する。 「ネット社会」を生きる上で必要な態度や知識を身に付ける。	性についての考え方や思いは人によって違う事を理解し、自分らしく生きるためには相手への共感や受容が大切であり、他者との比較ではなく、自分らしく生きることの大切さを理解できる。	主体的・対話的な学び合いを通して主体性を育成し、自尊感情を培い、よりよい人間関係を育む。「伝える力」を伸ばすことで、コミュニケーション力を高める。	性が多様であることを知り、生徒一人ひとりが自分のもつ悩みや不安に気付く。 多様性を認め合う社会の重要性に気付き、その中で自分の生き方を見つめ直す。
資料名	『中学社会 公民的分野』（日本文教出版）他	「多様な性について学ぶ」『きらめき』（県教育委員会）		『多様性が尊重される社会を目指して』（市教育委員会）他
指導内容や指導方法の工夫等	兵庫県から出されているインターネットとゲームの扱いに関する資料も使用し、「ネット社会」の危険を理解する。 生徒自身の身近な経験や世の中で実際に発生した事例に基づき、情報モラル・情報リテラシーについて理解・考察させる。（知識的側面からのアプローチ）	全校で共通の教材を用いて授業を行う。 当事者に対する侮辱的な言動は人権侵害であり、決して許されないことであることをおさえる。 学級内にLGBTQ+等の当事者がいる可能性があるという前提で指導する。当事者探し、カミングアウトの促し、アウティングをすることのないように、十分留意する。（価値的・態度的側面からのアプローチ）	異年齢集団の教え合い活動を通して、自分の考えを伝えたり、相手の考えを受け止めたりにすることにより、自他の価値観を認め合う態度を育てる。 教科目標を達成するとともに、よりよい人間関係が育めるよう生徒の実態に応じたグループ分けを行う。（技能的側面からのアプローチ）	性自認や性的指向に悩む人々に焦点を当て、ありのままの自分の気持ちを受け入れることが、自分らしく生きることにつながると気付かせる。 事前・事後アンケートをとり、生徒の変容を定量的に確認し、今後の指導に生かす。（価値的・態度的側面からのアプローチ）